

研究・調査報告書

報告書番号	担当
64	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Does smoking or alcohol modify the risk of Epstein-Barr virus-positive or -negative Hodgkin lymphoma?</p> <p>喫煙・アルコールが Epstein-Barr ウィルス陽性/陰性のホジキンリンパ腫のリスクを修飾するか？</p>	
執筆者	
Willetts EV, O'Connor S, Smith AG, Roman E.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Epidemiology. 2007 Jan;18(1):130-6.	
キーワード	
喫煙、アルコール、ホジキンリンパ腫、効果修飾	
要 旨	
<p>背景：</p> <p>この研究の目的は、ホジキンリンパ腫の2つの亜型(Epstein-Barr ウィルス陽性/陰性)が喫煙・アルコールと関連しているかを検討することである。</p> <p>方法：</p> <p>イングランドで地域的に定義された地域の、16歳から69歳までのリンパ腫と診断された患者を1998年から2003年に募集した。リンパ腫の各患者に対し、性別、出生年月日、居住地区をマッチした1人の対照が、人口登録よりランダムに選ばれた。喫煙・アルコール歴は患者・対照各々に対し、対面式の面接を通じて、自己申告により収集された。</p> <p>結果：</p> <p>生涯非喫煙者に比べ、喫煙したことのある者はホジキンリンパ腫のリスクが高かった(オッズ比 1.4, 95%信頼区間: 1.1-1.9)。この増加は現在喫煙者でも観察された(オッズ比: 1.7, 95%信頼区間 1.2-2.3)。喫煙年数が増加するに従い増加傾向が観察された。喫煙中止してからの年数が増加するに従いリスクは減少し、喫煙中止後10年以上で非喫煙者と同等となった。Epstein-Barr ウィルス陽性のホジキンリンパ腫では関連が示唆されたものの、Epstein-Barr ウィルス陰性のホジキンリンパ腫ではそうではなかった。ホジキンリンパ腫とアルコール消費の関連は観察されなかった。</p> <p>結論：</p> <p>喫煙とホジキンリンパ腫の関連は、特に Epstein-Barr ウィルス陽性/陰性のホジキンリンパ腫については、過去の研究と一致していた。ホジキンリンパ腫と喫煙との関連についての更なる探索および、喫煙と Epstein-Barr ウィルスとの相互作用がホジキンリンパ腫のリスクを増大させる潜在的なメカニズムの探求が必要とされる。</p>	